



2026 年 9 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社ひかりホールディングス
(コード番号 1445 TOKYO PRO Market)
代 表 者 名 代表取締役社長 倉地 猛
問 合 せ 先 取締役経営管理本部長 立川 征吾
T E L 0572-56-1212
U R L <https://www.h-holdings.jp>

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向等を踏まえ、2025 年 10 月 15 日に公表いたしました 2026 年 8 月期 (2025 年 9 月 1 日～2026 年 8 月 31 日)の通期連結業績予想を下記のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1.連結業績予想数値の修正

2026 年 8 月期 通期連結会計期間(2025 年 9 月 1 日～2026 年 8 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	5,707	107	66	25	59 円 87 銭
今回修正予想(B)	6,381	104	73	25	60 円 86 銭
増減額(B－A)	674	△3	7	0	－
増減率(%)	11.8%	△2.8%	10.6%	0.0%	－
(ご参考)前期実績 (2025 年 8 月期)	5,405	35	9	△37	△129 円 19 銭

2.修正の理由

当連結会計年度における事業環境におきましては、2026 年に発生した中東情勢の緊迫化に伴うナフサの供給不安や価格高騰（ナフサショック）を背景として、タイル・接着剤・塗料・防水資材等の建築・改修用資材の仕入コスト上昇および物流費の高騰など、厳しい局面が続いてまいりました。

このような状況下におきまして、グループ各社における業績推移は以下のとおりとなりました。

〈株式会社ひかり工芸・株式会社ケイズクラフト〉

生産・施工プロセスの見直しや徹底したコストコントロール、高水準な稼働率の維持が奏功し、当初予算を上回る利益を達成いたしました。

〈株式会社セラミックワン〉

積極的な営業活動により受注案件を確保し売上高（1,143 百万円）につきましては当初予算を達成したものの、ナフサ問題に伴う資材価格・物流コスト高騰の影響を受け、利益面におきましては当初予算を下回る結果となりました。

〈エムエイトアイ株式会社〉

案件の着実な施工進捗と徹底した費用抑制が寄与し、売上高（1,581 百万円）および各段階利益ともに堅調な業績を維持いたしました。

〈小林工業株式会社〉

土木分野における公共工事案件を安定的に獲得できたことに加え、手持ち案件の収益性改善や徹底した原価・工程管理により、当初計画を大幅に上回る利益（営業利益 36 百万円）を確保いたしました。

〈KIRYU 株式会社〉

新築工事の確実な施工進捗に加え、主力であるタイル（改修）工事および大規模修繕工事案件の受注拡大・原価管理が奏功し、グループ最大となる売上高（2,758 百万円）と堅調な単体営業利益（93 百万円）をあげて連結全社の増収に大きく貢献いたしました。なお、グループ連結会計におきましては、同社買収に伴うのれん償却費を連結損益計算書上、販売管理費へ計上しております。

これらに加え、グループ各事業会社間における資材調達共同化や施工ノウハウの相互活用（グループシナジー効果）による全社的なコスト削減と業務効率化が進展した結果、連結売上高につきましては前回発表の連結業績予想数値を上回る 6,381 百万円（前回比+11.8%）となりました。

損益面におきましては、セラミックワンの原価高騰に伴う利益未達や KIRYU 買収に伴うのれん償却費の計上等があったものの、KIRYU 単体での収益拡大や小林工業等の予算超過、営業外収益の計上等が相殺・貢献した結果、営業利益につきましては 104 百万円（前回発表比△2.8%）とほぼ前回予想通りの水準を維持し、経常利益につきましては 73 百万円（前回発表比+10.6%）、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては前回発表の連結業績予想数値と同水準の 25 百万円（前回発表比±0.0%）を確保できる見通しとなりました。

以上を総合的に勘案し、当期の通期連結業績予想を上記のとおり修正することといたしました。

（注）本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上